

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム  
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	J2601
代表機関名	東京外国語大学
主担当研究者所属部局	大学院総合国際学研究院
関連研究分野	ヨーロッパ史・アメリカ史
主担当研究者	篠原 琢
事業名	境界地域の歴史的経験の視点から構築する新しいヨーロッパ史概念

**I これまでの事業実施により得られた成果**

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

<b>評 点 3</b>
<b>コメント</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画していた 6 名の派遣に対し、最終的に 300 日以上派遣した者が 5 名（准教授 2 名＝351 日、325 日、講師 2 名＝342 日、359 日、ポスドク 1 名＝334 日）、300 日未満の者が 1 名（講師 1 名＝240 日）となった。</li> <li>・計画していた 5 名の招へいに対し、最終的に 12 名の招へいとなった。</li> <li>・目標とされたヨーロッパ史の叙述を再考する方法論的、概念的考察の英語での出版はまだ実現されておらず、個別研究を持続的にヨーロッパの全体史に統合する機構を生み出すことについても実現を見ていない点は残念である。</li> <li>・しかしながら、派遣・招へいを軸に国内外で開催された国際会議・ワークショップは 21 回におよび、ポーランド・チェコ・ドイツにまたがる大規模な国際移動セミナーも実施され、国際会議の成果は中央ヨーロッパ大学、欧州大学院大学、国際文化センター及び東京外国語大学における協力の下で出版が予定されるなど国際研究ネットワークの拡大を示した。</li> </ul> <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

<b>評 点 3</b>
<b>コメント</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業における目的である新たなヨーロッパ史の概念を構築するには至らず、世界の学術コミュニティに資する歴史的ヨーロッパ像の形成がなされたとも言えない点は残念である。</li> <li>・しかし、これらの目的や従来のヨーロッパ史研究の克服は 3 年の事業で達成できるようなものではなく、その目標に向けての国際会議・ワークショップ、国際移動セミナーなどの活動が盛んに行われたことについては評価できる。</li> </ul> <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。</p>

**II 今後の展望**

<b>評 点 3</b>
<b>コメント</b>

- ・中央ヨーロッパ大学、欧州大学院大学、国際文化センターとの機関提携を構築でき、協力関係は着実に強くなっているため、今後も共同研究の進展が期待できる。
- ・組織として当該研究領域における国際ネットワークのハブとなり、発展できるかの具体的な手段の提示が薄弱ではあるが、若手研究者が今後研究ネットワークの核として活躍する見込みはありと考えられるため、今後5～10年を見据えた若手研究者による新たな外部資金獲得などの活動により、機関連携を深めていくことが期待される。

以上のことから、今後の展望は今後の展望は概ね高く評価できる。

### 総合的評価

評 点 3

#### コメント

- ・当初の目的である、周辺からヨーロッパ史の既成概念を打ち破り、新たなヨーロッパ史の概念を構築できたかには疑問が残るが、若手研究者をヨーロッパ周辺地域に派遣し研究実績を積むことに成功し、連携機関から多くの研究者を招へいした点は評価できる。
- ・派遣・招へいを軸に国内外で開催された国際会議・ワークショップは21回におよび、ポーランド・チェコ・ドイツにまたがる大規模な国際移動セミナーも実施された。また、国際会議の成果は、中央ヨーロッパ大学、欧州大学院大学、国際文化センターと東京学国語大学との協力の下に出版が予定されており、3年間の事業としては満足すべき成果だと判断される。
- ・海外の研究機関とのネットワークは強まり、若手を含む人的交流は拡大しており、将来につながる基礎的事業として評価できる。

以上のことから、総合的に概ね高く評価できる。

※評点に対する標語は下記の通り。

#### 【I (1)、(2)】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

#### 【II、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない